

特選神名牒

石見國三十四座

並小〇今鳥
根藤管下

○安濃郡十座

小並

物部神社

稱一宮

祭神 宇麻志摩遲命

神位 清和天皇貞觀十一年三月廿二日庚辰授石見國從五位

上物部神正五位下十七年十月十日己未授石見國正五位下物

部神正五位上陽成天皇元慶三年九月四日辛卯授石見國正五

位上物部神從四位下朱雀天皇天慶四年十一月十九日奉授石

見國從四位下物部神從四位上

祭日 十月九日

社格 國幣小社

所在 河合村八百(安濃郡川合村大字川合)

菊田神社

祭神 菊田比古命

倉稻魂命

今按若狹國遠敷郡に菊田比古神社菊田比賣神社あり御同

神か未だ考へ得ず國人藤井宗雄は紀伊國名草郡加太神社
あり朝棟神社刺田比古神社あり本國にも朝倉彦命神社刺
鹿神社あれは此加田神社に由あらんか其は紀伊國と石見
國とは國造を始め由ある事多ければなり云々又三代實錄
貞觀十二年十二月に伊豫國菊田首倉繼菊田首淨根等賜姓
物部連と云も有りて説へるは物部神社に由縁なとある
神に座すかよく考ふへし

祭日 八月廿日

社格 村社

所在 波根西村神谷(安濃郡波根西村大字波根西)

今按本社の外大田南村諏訪神社の社傳に信濃國諏訪より

勸請せし時田を菊で新築を以て社殿を營く故に菊田神社

と云とは石見國風土記と云ものに喜多郡は健南方命國

巡行坐時來此所而獨田野爾時菊田田賦稻一人以之

鑿奉命云々とあるなとより思ひよせしか此風土記は信

せられぬ書なれと外に元祿十一年の棟札に奉造替石見國

安濃郡大田村菊田神社諏訪大明神と記せりといへとも

波根西村の天正十八年九月の棟札に菊田神社御殿云々と

あるに及はされはかの諏訪神社は採らず

刺田神社

(明細帳刺田神社なし刺鹿神社とあり祭
神同所に付此神社ならんか取調の事)

祭神 大彦命

今按明細帳に大彦命とす注進文に國人藤井宗雄云社傳に

大彦命とあるは頭注抄に依れるものにて信かたし丹波國

何鹿郡佐須我神社また河辨奈備神社あり本國にも近く神

邊神社あるは由あらんかといへりさて丹波國佐須我神社

祭神不詳考ふるに由なし姑く社傳のまゝを掲ぐ

祭日 九月廿九日

社格 村社

所在 刺賀村宮(安濃郡刺鹿村大字刺賀八幡宮に合併)

朝倉彦命神社

祭神 朝倉彦命

今按明細帳に朝倉彦命とあり注進文に社傳應神天皇神功
皇后姬大神とすを藤井宗雄云社傳に應神天皇云々とあ
るは頭注抄に八幡宮とあるに從たるものにて信かたし彦

命の二字は後人の加たるならん大飯神社を大飯彦命とし

たる類なり土佐國土佐郡朝倉神社あり古史傳に風土記を

引て土佐郡有朝倉郷々中有社神名天津羽々神天石帆別命

今天石門別命子也とある社にて都佐坐神社祭神一事主尊

の后神なりとあるにて當社の祭神を知るへしさて村は異

なれと近く神邊神社あり又石門別命に由ある岩倉と云地

且大麻山神社と思しき社も有り正徳三年十月の棟札に奉

新再興石陽安濃郡朝倉村朝倉彦命神社とありと説へる古

史傳の文は釋記に見えたる逸文なり那賀郡に大祭天石門

彦神社もありて此は捨つへからざる説なりされと既に正

徳の棟札にも朝倉彦命とあれば今此神名を唱へて妨なか
るへければなほ朝倉彦命とす

祭日 八月十日

社格 村社

所在 朝倉村田(安濃郡朝山村大字朝倉)

新具蘇姬命神社

祭神 新具蘇姬命

殿相 天照大御神

祭日 九月廿九日

社格 村社

所在 吉永村山(安濃郡川合村大字吉永)

邇幣姬神社

祭神 邇幣姬神

今按明細帳に大屋津比賣命桃津比賣命とあるを注進狀に
藤井宗雄云社傳に大屋姫命桃津比賣命とあるは頭注抄に
從ひしものにて信かたし是は土人にて上の新具蘇姬命の

亦名を以て記れるにて史傳に此社は土江村と云に在り鏡

胤云邇幣の幣をえの如く唱ふるより土江と誤れるには非

しかとあり今は土江と唱ふ此邊すへてにへと云ひけん其

は和江と云地はニギユにてにへの配りかと説り埴山毘賣